

病害虫発生予察注意報 第 4 号

病害虫名：ハスモンヨトウ

- 1 発生予想** ハスモンヨトウの県内への飛来頭数が多く、多発する恐れがある。
- 2 対象地域** 県内全域のハスモンヨトウ加害作物（大豆、野菜類、花き類、果樹類など）
- 3 根拠**

- (1) 本種は、県内においては、露地での越冬はできず、暖地で越冬した個体が飛来し、世代を重ねて増殖しながら北上し、主に秋に被害が発生すると考えられている。
- (2) 塩尻市、須坂市に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺頭数が平年と比べ多く、5 月第 1 半旬から 8 月第 3 半旬までの累積頭数が平年の 2 倍以上となっている。特に塩尻市では、ハスモンヨトウの被害が多発した令和 6 年の誘殺頭数を上回っている（表 1）。
- (3) ハスモンヨトウは、例年 8 月頃から飛来頭数が増加し、9 月の飛来頭数が最も多くなることから、今後さらに飛来頭数が増えると推測される（図 1）。
- (4) 本種は広食性であり、多くの作物の主に葉を食害し、1 頭当たりの摂食量も多く、被害が大きくなる可能性が高いことから、注意する必要がある。

4 防除対策と留意点について

- (1) ほ場内をよく見回り、早期発見・早期防除に努める。
- (2) 本種は卵塊で産卵し、若齢幼虫（写真 1）は集団で葉肉を食害して表皮が残るため、葉が白化したように見える（写真 2）。このような葉がみられた場合は、本種の発生を疑い、幼虫が確認された場合は速やかに防除を行う。
- (3) 幼虫の齢が進むと（写真 3）、薬剤の効果が低下するため、できるだけ、若齢幼虫期に防除を行う。
- (4) 農薬を使用する際は、必ず農薬ラベルの記載事項を確認する。
- (5) 登録農薬の無い作物においては、ふ化前の卵塊（雌成虫の短茶色の鱗毛でおおわれる）の除去、寄生幼虫の捕殺を行う。
- (6) ほ場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
- (7) 施設栽培の野菜、花き類では開口部に防虫ネット（4mm 目以下）を設置して、成虫（写真 4）の侵入を防ぐ。

表 1 ハスモンヨトウのフェロモントラップへの累積誘殺頭数（5 月第 1 半旬～8 月第 3 半旬）

調査地点	本年（頭）	平年値（頭） （令和 6 年を除く 10 か年の平均値）	令和 6 年（頭） （被害多発年）
塩尻市宗賀	653	260.4	412
須坂市小河原	454	194.5	811

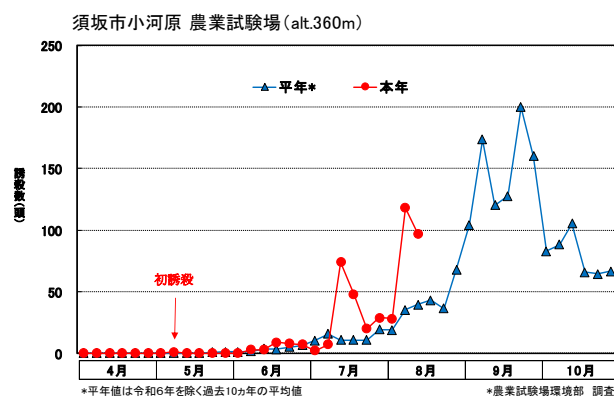
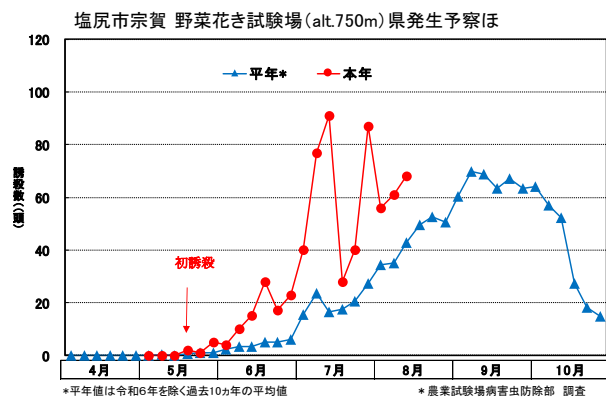


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺状況



写真1 ハスモンヨトウ若齢幼虫
(体長 1.5～10mm 程度)



写真2 大豆の葉の白化



中齢幼虫

老齢幼虫

写真3 ハスモンヨトウ中齢及び老齢幼虫
(体長 老齢幼虫で3～4cm)



写真4 雌成虫

(問合せ先)

担 当 病害虫防除部 近藤、若林

電 話 026-248-6471

ファクシミリ 026-248-6473

電子メール bojo@pref.nagano.lg.jp